

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年4月5日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2012

課題番号：20243010

研究課題名（和文）アジア主義のビジョンとネットワークに関する広域比較研究

研究課題名（英文）A comparative study of Asianism across Asia from the perspectives of vision and network

研究代表者：

松浦 正孝（MATSUURA MASATAKA）

立教大学・法学部・教授

研究者番号：20222292

研究成果の概要（和文）：

本研究は、アジア各地における多様なアジア主義のビジョンと構造を解明し相互比較すると共に、アジア主義ネットワークの生成過程を解明した。方法としては、国内外から選ばれた各地域の専門研究者と各事例を議論することで、アジア主義に共通の構造と地域それぞれに固有の特徴とを明らかにした。そうすることで、各地域におけるアジア主義を相対化して民族中心的なバイアスから解放し、アジアにおける共同体の可能性と条件、各民族・国家の共生の可能性を探ろうとした。

研究成果の概要（英文）：

This project analyzed various cases of “Asianism” in the Asian region. It also tried to explain their visions and structures and then to compare the different versions of Asianism with each other. Additionally, the project traced the creation of a network of Asianism. By discussing case studies with scholars with expertise on different areas of Asia from Japan and abroad, the project clarified the common structure of the Asianism and the differences of each case within the various areas of Asia. In the end, it tried to take research on Asianism in various areas of Asia beyond the tendency of ethnocentrism in order to think about the possibility and the conditions of an “Asian Community” and to imagine ways that various races and nations could live together peacefully.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2009年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
2010年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
2011年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2012年度	3,000,000	900,000	3,900,000
総計	30,000,000	9,000,000	39,000,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：アジア主義、地域主義、ネットワーク、アジア観、植民地主義

## 1. 研究開始当初の背景

開始当初、濱下武志や杉原薫による 1990 年代のアジア域内経済の業績に加え、山室信一がアジア全体の中で日本のアジア主義を位置づけると共に同時代の思想・文化の連鎖という斬新な視角を問う研究を発表し、沖縄・中国・韓国を踏まえてアジア主義を論じようとする米谷匡史、小中華主義の競合を論じる古田博司、「大アジア」を陰謀史観という切り口で語る海野弘などの斬新な研究も出た。海外ではドアラが、満州国でのアジア主義を、中国史・ナショナリズム・帝国主義・アイデンティティ・モダニティなどの幅広い視野の中で位置づけた。現実でも、アジア経済が台頭し東アジア共同体論が脚光を浴びていた。これらに刺激され、自民族中心ではなく相対的なアジア主義の像を探るために、広域比較研究の立場から、内外から各国・各地域研究の専門家を集めて議論する共同研究を志した。

## 2. 研究の目的

本研究は、「アジア主義」を「自地域を中心に『アジア』をイメージすることで政治的・経済的な機能を持たせられようとしたアジア各地域に遍在するイデオロギー」と再定義した上で、アジア各地のアジア主義を相対化し、それらの構造と生成過程、相互関係を検討する。即ち、「アジア」の構成やビジョン、帰属ネットワークなどからその構造を明らかにすること、構造的・内在的要因及び域外要因によってアジア主義が生成されてくる過程を解明すること、さらに各アジア主義相互の競合・連鎖・統合の関係を検討することである。これらを通じて各アジア主義を相対化し、アジア地域における各国家・政治主体の共生の可能性を探ることが、本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

各地の「中心性」を主張するアジア主義の事例を集めることによって、逆に各地域のアジア主義を相対化し、日本を中心として考えられてきたアジア主義のこれまでの研究状況とは全く異なるところに、アジア主義を位置づけ直す。その上で、各地域のアジア主義のビジョン・構造・相互関係を明らかにし、広域比較を行うことで、アジア主義を捉え直す。

## 4. 研究成果

(1) 本研究はまず、日本のアジア主義を相対化するために、アジアにおける様々なアジア主義の事例と比較しようと試みた。国内外における第一線の研究者を招き、4年間にわたる比較研究のシンポジウムを開催した結果、アジア各地におけるアジア主義が実に多様であり、日本で考えられている「アジア主義」が、日本独特の磁場にあることが明らかになった。アジア主義の具体的な事例のビジョンとネットワークを分析したこと自体に大きな意味があるが、さらに、アジア主義の相対化により自民族中心的なバイアスを補正し、共存・共助のための条件を探ることができるようになった。

(2) 本研究によって、アジア主義についての新たな理論的知見が明らかになった。それは、

- ① 西洋列強に圧迫された背景を持つ歴史的なアジア主義と、現在におけるアジアの経済発展を背景とする地域主義との関係を、どう理解するかについて考察した。本研究では両者を別のものであるながらも、連続性について検討を続け、戦前のアジア主義と戦後のアジア地域統合との関係を理解する緒として、第二次世界大戦前後のアジアにおける資本主義及び政治経済体制の変容という手がかりに

辿り着くことができた。

- ② 本研究はアジア主義の分析にあたって、全般的な類似性を前提とするのではなく、各地域・各時期における固有性を明らかにしようとした。「ウチ」「アジア」「ソト」という三つのアイデンティティという観点から「アジア」観を検討し、それぞれのアジア主義の背景となるビジョンを明らかにするよう留意したことで、各地域・各民族に特有な要因が明らかとなった。それらを比較することで、通商経済、労働力、宗教、イデオロギー、政治的操作、政治参加運動、友情を含む情念、「帝国」についての歴史的記憶や制度化、社会集団、「他者」との遭遇などの、アジア主義に重要な要素を析出した。

- ③ アジア主義の分析にあたって、本研究はネットワーク分析を導入することで、歴史叙述におけるダイナミズムと理論的検討の可能性を高めることができた。アジア主義の背後にある地域認識、ユーラシアやイスラームなどの広域圏、アメリカ・イギリス・オーストラリア・ロシアなどの域外要因、異種ネットワークの接触・交叉するコンタクト・ゾーンなどの論点を抽出した。アジア主義を形成する「他者」要因としての「西洋」概念について従来の一枚岩的な理解を否定すると共に、アジア主義のハイブリッド性や両義性等の特徴も析出した。また、ヨーロッパ統合との比較においてアジア統合を検討した。

- (3) 研究代表者が2010年に刊行した『「大東亜戦争」はなぜ起きたのか』は国内外で反響を呼び、浜由樹子『ユーラシア主義とは何か』、吉澤誠一郎『清朝と近代世界19世紀』、中島岳志『朝日平吾の鬱屈』、大賀哲『東アジアにおける国家と市民社会』など、地域主義

やアジア主義と宗教・社会との関係、ナショナリズムとアジアの関係などで話題となった単著が刊行された。また成果の多くは、国際漢学会議、世界歴史家会議を始めとする内外の学会で発表された。本研究の成果のダイジェストとして、最終年度末に松浦編著『アジア主義は何を語るのか』が刊行された。

(4) 中国研究者やドアラ、アイドゥン、孫歌といった、地域研究やアジア研究など世界の最先端の研究者と議論を通じて、新たな世界的ネットワークを構築することができ、今後のアジア主義研究のさらなる発展を実現する基盤を築くことができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計113件)

1. 高橋正樹「タイの失地回復運動が求めた領土と民族—大陸部東南アジアの潜在的国際地域秩序研究」『法学新報』(中央大学法学会)、査読無、第119巻9・10号、2013年、pp.427-479
2. デイビッド・ウルフ「対华国際真相：揭开中苏关系最后阶段的史实」(李丹慧主【編】『冷戦国際史研究』世界知識出版社)、査読無、12号、2012年、pp.1-31,
3. OBA, Mie “Northeast Asia After the Global Financial Crisis: Power Shift, Competition, and Cooperation in the Global and Regional Arenas” (Pempel, T. J. (ed.), “*The Economy-Security Nexus in Northeast Asia*”, Routledge)、査読無、II、2012年、pp.110-128
4. 大庭三枝「第五章『ハブ』としてのASEAN—域外諸国との関係とその変容」(山影進【編】『新しいASEAN—地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所)、査読無、2012年、pp.139-173
5. 姜東局「近現代韓国における国際領域の自由概念(韓国語)」(河英善等【著】『近代韓国における社会科学概念の形成史II』韓国・ソウル:創批)、査読無、II、2012年、pp.201-268
6. 浜由樹子「思想としてのユーラシア主義—ロシア思想のグローバル・ヒストリー」(塩川伸明【編】『ユーラシア世界I<東と西>』東京大学出版会)、査読無、I巻、2012年、pp.51-72
7. 松浦正孝「日中戦争から第二次世界大戦

- へ」(和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡・川島真【編集委員】『岩波講座 東アジア近現代通史 6 アジア太平洋戦争と「大東亜共栄圏」1935-1945年』岩波書店)、査読無、6巻、2011年、pp.128-150
8. 松浦正孝「日本の近代化—西洋型とアジア型」『歴史学研究』、査読無、878号、2011年、pp.17-23
  9. YAMAMURO, Shin'ichi “Der Erste Weltkrieg und das japanische Empire” (“Bochumer Jahrbuch zur Ostasienforschung”)、査読無、No. 34、2011年、pp.21-51
  10. NAKAJIMA, Takeshi “The Radhabinod Pal Dissident Judgment and Nationalism in Post-war Japan” (International Research Center for Japanese Studies (ed.), “*Changing Perceptions of Japan in South Asia in the New Asian Era: The State of Japanese Studies in India and Other SAARC Countries*, International Research Center for Japanese Studies.”) 、査読無、2011年、pp.235-275
  11. 中島岳志「黒龍会と一進会」『潮』、査読無、7号、2011年、pp.316-327
  12. 大賀哲「アジア地域主義における主観規範と人権規範—その受容・競合・複合化—」『政治研究』、査読有、58号、2011年、pp.25-57
  13. MATSUURA, Masataka “Japan and Pan-Asianism” (BEST, Antony (ed.), “*The International History of East Asia, 1900-1968*” (Routledge))、査読無、2010年、pp.81-98
  14. 土屋光芳「『戦わざる軍隊』—汪政権の特質についての考察」『政経論叢』、査読有、78巻3・4号、2010年、pp.47-100
  15. 大庭三枝「アジア太平洋地域主義の特質」(渡辺昭夫【編】『アジア太平洋と新しい地域主義の展開』千倉書房)、査読無、2010年、pp.67-87
  16. 大庭三枝「重層的な地域制度構造における『アジア太平洋』」『海外事情』、査読無、58巻10号、2010年、pp.21-38
  17. 吉澤誠一郎「懐疑される愛国心—中華民国四年の反日運動をめぐって」『思想』、査読無、1033号(2010年第5号)、2010年、pp.243-261
  18. 姜東局「朝鮮における西洋近代国際秩序の理解と春秋・戦国」(吉田忠【編】『19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究』国際高等研究所)、査読無、2010年、pp.215-236
  19. 大賀哲「国際政治学における地域主義研究の動向と課題—東アジア地域主義論についての予備的考察」『法政研究』、査読有、77巻1号、2010年、pp.65-97
  20. 浜由樹子「『ユーラシア』概念の再考—『ヨーロッパ』と『アジア』の間」『ロシア・東欧研究』、査読無、37号、2009年、pp.17-31
  21. 土屋光芳「汪精衛政権の基盤強化の戦略—大亞州主義、東亜連盟運動、新国民運動」『政経論叢』、査読有、77巻5,6号、2009年、pp.35-86
  22. 高橋正樹「タイの地域主義の歴史的考察—東南アジアの多層的国際秩序研究—」『法学新報』、査読無、115巻9・10号、2009年、pp.463-496
  23. デイビッド・ウルフ「ロシアの東方政策と中国・日本」(三谷博・並木頼寿・月脚達彦【編】『大人のための近現代史 19世紀編』東京大学出版会)、査読無、2009年、pp.114-121
  24. 大賀哲「『開かれた地域主義』と東アジア共同体構想—東アジア・サミットをめぐる日本の視座」『国際政治』、査読有、158号、2009年、pp.135-149
  25. 松浦正孝「[解説]雑誌『大東亜主義』と大東亜協会について」(後藤乾一・松浦正孝【編集解説】『復刻版 大東亜主義』1巻、龍溪書舎)、査読無、2008年、pp.21-86
  26. 山室信一「東アジアにおける共同体と空間の位相」『環』、査読無、35号、2008年、pp.189-201
  27. 中島岳志「日本右翼再考—その思想と系譜をめぐって」『思想地図』、査読無、1号、2008年、pp.63-86
  28. 大庭三枝「『東アジア共同体』論の展開：その背景・現状・展望」(高原明生・田村慶子・佐藤幸人【編著】『現代アジア研究<1>越境』慶應義塾大学出版会)、査読無、2008年、pp.443-468
- [学会発表] (計51件)
1. 山室信一「東アジアにおける近代の多元性について—空間学知と連鎖視点から」((中華民国)台湾大学人文社会高等研究院・台湾中文学会(招待講演))、2012年12月14日、台湾大学(台湾)
  2. 浜由樹子「汎イズムの伝播と思想交流—戦間期のロシアと『アジア』を中心に」(日本国際政治学会2012年度大会(トランスナショナル分科会))、2012年10月19日、名古屋国際会議場
  3. YOSHIZAWA, Seiichiro “Chinese Nationalism and the Concept of Empire in the Twentieth Century” (7th Anglo-Japanese Conference of Historians)、2012年9月12日、Trinity Hall, University of Cambridge, U.K.
  4. OGA, Toru “ASEAN Human rights mechanism and the role of civil society: Cases of LAWASIA and Forum-ASIA” (Asian Law Institute Conference)、2012年6月1日、

- Faculty of Law, National University of Singapore, Singapore
5. 高橋正樹「タイとカンボジアのプラウイハーン/ブレアヴィヒア問題」(日本タイ学会)、2011年7月2日、愛知大学
  6. WOLFF, David “Stalin and the Redrawing of Soviet Asian Borders” (L’ URSS et la deuxième guerre mondiale)、2011年5月5日、Ecole des Hautes Etudes en Sciences, Sociales, Paris, France
  7. MIYAGI, Taizo “The Bandung Conference and Japan (Association for Asian Studies)、2011年4月3日、Honolulu, Hawaii, U. S. A.
  8. WOLFF, David “Josepf Stalin’ s India Policy, 1947-1953” (India and the Cold War)、2010年12月18日、Nehru Memorial Library, New Delhi, India
  9. 松浦正孝「戦前日本の対アジア政策—汎アジア主義者を中心として」(日本政治学会研究大会共通論題「21世紀の地域構想—日本とアジア」)、2010年10月9日、中京大学名古屋キャンパス
  10. 宮城大蔵「戦後日本とアジア」(日本政治学会)、2010年10月3日、中京大学
  11. MATSUURA, Masataka “Japanese Modernization :Western and Asian” (Special Session “The Modernization of China, India and Japan:a Comparative Study” (21st International Congress of Historical Sciences) )2010年8月24日、Amsterdam University, Netherlands
  12. YOSHIZAWA, Seiichiro “Economic Transformation in the 19th – 20th Century China:A Comparative Study” (21st International Congress of Historical Sciences)、2010年8月24日、Amsterdam University, Netherlands
  13. HAMA, Yukiko “The Reinterpretation of Eurasianism in the Context of International History :The Encounter of Eurasianism with Japan’ s Pan-Asianism” (ICCEES VIII World Congress 2010 (Panel XII. 17 “Eurasianism Then and Now:A Comparison of Classical and Post-Soviet Eurasianism” ))、2010年7月29日、Stockholm City Conference Center, Sweden
  14. 大庭三枝「世界経済危機に対するアジアの対応策と国際金融ガバナンス—『地域レベル』での対応と『グローバルレベル』での対応—」(2009年度日本政治学会)、2009年10月11日、日本大学法学部本館
  15. 高橋正樹「長期変動期にあるタイ政治—グローバル化と『平等化』政治—」(日本タイ学会第11回研究大会)、2009年7月4日、京都大学東南アジア研究所
  16. WOLFF, David “Josepf Stalin’ s India Policy, 1947-1953” (Cold War International History Project )、2009年5月、Woodrow Wilson Center for International Scholars, U. S. A.
  17. 大賀哲「日本から見た東アジア・サミット—内政と外交の交錯」(第4回亜州大学・九州大学国際学術会議)、2008年11月20日、亜州大学 (韓国)
  18. 浜由樹子「ロシアにおけるユーラシア主義—『アジア』概念との関係を中心に」(日本国際政治学会)、2008年10月25日、つくば国際会議場
  19. 高橋正樹「タイにおける“アジア主義”—タイの地域主義概念の歴史的考察—」(日本国際政治学会)、2008年10月25日、つくば国際会議場
  20. 姜東局「韓国におけるアジア主義とナショナリズム：相関関係の形成と持続」(日本国際政治学会)、2008年10月25日、つくば国際会議場
  21. 姜東局「東アジアの観点から見た安根重の東洋平和論」(韓国語)(韓国政治学会)、2008年10月24日、韓国外国語大学校、(韓国)
  22. 浜由樹子「『ヨーロッパ』と『アジア』の狭間—『ユーラシア』地域概念の再考」(ロシア・東欧学会)、2008年10月13日、名古屋学院大学白鳥校舎
- 〔図書〕(計23件)
1. 松浦正孝【編著】カロライン・S・ハウ、白石隆、大賀哲、姜東局、リ・ナランゴア、浜由樹子、ノエノエ・シルヴァ、ブリジ・タンカ、松本佐保、アントニー・ベスト、ジェミル・アイドゥン、臼杵陽、吉澤誠一郎、孫歌、劉宏、曹善玉、プラセンジット・ドアラ、長崎暢子、松谷基和、土屋光芳、何義麟、中島岳志、三沢伸生、シナン・レヴェント、高橋正樹、デイヴィッド・ウルフ、李培徳、関根政美、大庭三枝、宮城大蔵【著】、ミネルヴァ書房、『アジア主義は何を語るのか—記憶、権力、価値—』、2013年、671頁
  2. 中島岳志、岩波書店、『京都学派の遺産—鈴木成高における世界史の哲学と戦後保守』、(酒井哲哉【編】『岩波講座・日本の外交・第3巻—外交 思想』)、2013年、pp. 175-200
  3. 大賀哲、柏書房、『東アジアにおける国家と市民社会—地域主義の設計・協働・競合』、2013年、319頁
  4. 山室信一、ソウル・J&C、『사상과제로서의 아시아, 그 이후 (思想課題としてのアジア、その後)』、2012年、153頁
  5. 宮城大蔵【著】中村雅治、イーヴ・シュメイユ【編】、上智大学出版、『EUと東アジア

- アの地域共同体—戦後日本の地域』、2012年、pp. 265-283
6. デイビッド・ウルフ, 北海道スラブセンター、『同盟と国境：地域大国を規定するもの』（『比較地域大国論集8』）、2012年、pp. 1-33
  7. 山室信一, 人文書院、『複合戦争と総力戦の断層—日本にとっての第一次世界大戦』、2011年、174頁
  8. 土屋光芳, 人間の科学新社、『汪精衛政権論—比較コラボレーションによる考察』、2011年、319頁
  9. 土屋光芳, 人間の科学新社、『「汪兆銘政権」論—比較コラボレーションによるアプローチ』、2011年、346頁
  10. 松浦正孝, 名古屋大学出版会、『「大東亜戦争」はなぜ起きたのか—汎アジア主義の政治経済史』、2010年、1088頁
  11. 浜由樹子, 成文社、『ユーラシア主義とは何か』、2010年、297頁
  12. 吉澤誠一郎, 岩波書店、『清朝と近代世界—19世紀』、2010年、232頁
  13. 中島岳志, 筑摩書房、『朝日平吾の鬱屈』2009年、206頁
  14. NAKAJIMA, Takeshi, Promilla & Co., Publishers in association with Bibliophile South Asia  
“Bose of NAKAMURAYA: An Indian Revolutionary in Japan.”, 2009年、323頁
  15. 中島岳志, 日本放送出版協会、『ガンディーからの“問い”—君は「欲望」を捨てられるか』2009年、229頁
  16. 宮城大蔵, 筑摩書房、『「海洋国家」日本の戦後史』、2009年、231頁
  17. 大賀哲・杉田米行【編】, 国際書院『国際社会の意義と限界—理論・思想・歴史』2008年、357頁

[その他]

ホームページ等

・ <http://www.juris.hokudai.ac.jp/~matsura/4-1.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松浦 正孝 (MATSUURA MASATAKA)  
立教大学・法学部・教授  
研究者番号：20222292

### (2) 研究分担者

山室 信一 (YAMAMURO SHIN' ICHI)  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号：10114703  
浜 由樹子 (HAMA YUKIKO)  
津田塾大学・国際関係研究所・研究員  
研究者番号：10398729  
土屋 光芳 (TSUCHIYA MITSUYOSHI)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：20197726

中島 岳志 (NAKAJIMA TAKESHI)

北海道大学大学院・法学研究科・准教授

研究者番号：40447040

高橋 正樹 (TAKAHASHI MASAKI)

新潟国際情報大学・情報文化学部・教授

研究者番号：50288247

宮城 大蔵 (MIYAGI TAIZO)

上智大学・外国語学部・准教授

研究者番号：50350294

Wolff David (WOLFF DAVID)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：60435948

大庭 三枝 (OBA MIE)

東京理科大学・工学部・准教授

研究者番号：70313210

吉澤 誠一郎 (YOSHIZAWA SEIICHIRO)

東京大学大学院・人文社会系研究科

・准教授

研究者番号：80272615

姜 東局 (KANG DONGKOOK)

名古屋大学大学院・法学研究科・教授

研究者番号：80402387

大賀 哲 (OGA TORU)

九州大学大学院・法学研究院・准教授

研究者番号：90445718

### (3) 連携研究者

酒井 哲哉 (SAKAI TETSUYA)

東京大学・総合文化研究科・教授

研究者番号：20162266

後藤 乾一 (GOTOU KEN' ICHI)

早稲田大学・アジア太平洋研究科・教授

研究者番号：90063750

都丸 潤子 (TOMARU JUNKO)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：00252750

関根 政美 (SEKINE MASAMI)

慶應義塾大学・法学部・教授

研究者番号：20129498

矢口 祐人 (YAGUCHI YUJIN)

東京大学・総合文化研究科・准教授

研究者番号：00271700

高原 明生 (TAKAHARA AKIO)

東京大学・法学政治学研究科・教授

研究者番号：80240993

遠藤 乾 (ENDO KEN)

北海道大学・大学院公共政策学連携

研究部・教授

研究者番号：00281775

松本 佐保 (MATSUMOTO SAHO)

名古屋市立大学・大学院人間文化

研究科・教授

研究者番号：40326161